

令和 8 年 8 月 4 日

令和 7 年度 特別の教育課程の実施状況等について

学 校 名	管理機関名	設置者の別
京都聖母学院小学校	学校法人聖母女学院	私

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
京都聖母学院小学校	https://www.seibo.ed.jp/release/assessment

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
京都聖母学院 小学校	https://www.seibo.ed.jp/release/assessment	

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

☒ 計画通り実施できている
☐ 一部、計画通り実施できていない
☐ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

☒ 実施している
☐ 実施していない

<特記事項>

参観日や学習発表会を通して学習の成果を発表している。また、入試関連行事においては、幼稚園や保育園、インターナショナルスクールに通う園児や保護者にも成果を見ていただく機会を設けている。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

①実施による効果

- ・ 日常的にネイティブ講師が身近にいるため、授業だけでなく休み時間においても、英語でコミュニケーションを取ることに積極的な姿勢が育つ。
- ・ ネイティブ講師が身近である環境は、国際クラスだけでなく他クラスの児童にとっても英語の授業を進める上で大変効果的である。また、休み時間にもネイティブ講師と会話やゲームを楽しむことができる。
- ・ ネイティブ講師が多国籍であるため、授業の中で多様な文化や考え方に触れる機会がある。
- ・ 学習指導要領に基づいたカリキュラムで授業を実施しているため、中学校の学習についても安心して進学することができる。

②課題

- ・ 学年・教科によっては、1クラスに4人の教員を配置したり、教科によって担当する児童が変わったりすることもあり、クラスに関わる教員数が多い分、きめ細かい指導が出来るが、情報共有するための時間確保を計画的に調整していく必要がある。
- ・ ネイティブ講師は複数学年に渡り多くの授業を担当しているため、日本人教員との、連携を密に図るよう留意している。
- ・ 学んだことを英語でアウトプットする力をつけるためにプレゼンテーション活動を通して自分の思いや考えを伝えることができるようになること。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

- ・ 英語の4技能においてバランスよく力をつけることを目標としているが、特にリスニングについては、1年生からの積み上げによって秀でた力をつけることができている。
- ・ 学習指導要領に則った教育課程を組んでいるので、卒業時には小学校でつけなければならない各教科等の力については問題なくつけている。また、高学年に進むにつれ、算数・理科・社会では日本語による授業を実施し確かな学力をつけることができるよう進めている。

4. 課題の改善のための取組の方向性

- ・ プレゼンテーション活動に多く取り組み、学んだことを生かす学習環境づくりを進めていく。

- ・家庭においてソフトを用いた英語学習を行い、継続して系統的な英語力を育成できるよう手立てを講じている。
- ・ネイティブ講師との協力体制による指導を継続できるよう情報共有や連携を計画的に図っていく。